

栗東市 ◆ 話題の発掘調査

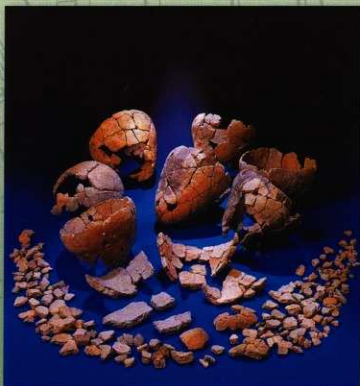
はっくつ2008



霊仙寺遺跡



多福寺遺跡



手原遺跡



辻遺跡

■ 掲載の遺跡

多福寺(たふくじ)遺跡
霊仙寺(りょうせんじ)遺跡
辻(つじ)遺跡
手原(てはら)遺跡

伝説の多福寺跡か？

多福寺遺跡

鎌倉時代～室町時代

林には大きな榎門がひときわ目を引く新善光寺が所在します。その新善光寺の西側で4月から6月にかけて多福寺遺跡の調査を行いました。

「多福寺遺跡」は大字林の小字「田福寺」に位置する遺跡で、奈良の興福寺の末寺を記した古文書に記載されている近江国栗太郡の高野四ヶ寺の一つである「多福寺」

があった場所と考えられてきました。

調査では鎌倉時代から室町時代の建造物の柱の跡が多数見つかった他、一定の区域を区画する溝を数条を確認しました。出土品には花瓶という一輪差しや香炉、「寺」の墨書土器、石塔の相輪2点が出土するなど寺院に関連する遺物が多数出土しました。（佐伯）



溝から土器が多数出土



調査区の東半分

古墳時代前期の集落

霊仙寺遺跡

古墳時代前期

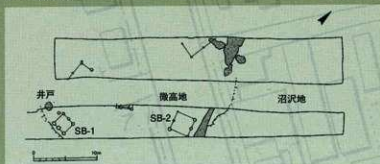
今回の調査では、古墳時代前期の溝・掘立柱建物・土坑がみつかりました。

掘立柱建物は2周×1周が2棟（SB-1、2）、2周以上×1周（以上）が2棟（SB-4、5）、規模が不明なものが1棟以上（SB-3）あります。掘立柱建物に関連するものとして、SB-2の東側に溝があり、木片や炭化物とともに古式土師器の破片などがまとまって発見されました。またSB-1の西には井戸が存在し、有機物層から小型丸底土器や底部に穿孔がある甕の破片、土製品、木鏝3点、先端が燃えた加工木、ヒョウタンなどがまとまって出土しました。

これら古墳時代前期の遺構群は、狭い微高地上に形成された小規模な集落とみられ、湖南における集落のあり方の一端を知る資料となりました。（雨森）



井戸の底



古墳時代前期の土器

「玉作り」のムラのお祭り

辻遺跡

古墳時代後期

辻遺跡は、豊富な地下水と野洲川からの用水を有効に利用できる扇状地の扇央部に立地しています。この地は、技術が発達した古墳時代の米作りに適した環境で、隣接する高野遺跡・岩畑遺跡とともに、県下でも有数の古墳時代を中心とする大規模な集落が営まれた地域です。

辻遺跡では、これまでに古墳時代の竪穴式住居が400棟以上確認されています。遺物的には、初期須恵器や朝鮮半島南部とのかかわりのある陶質・韓式系土器などがあり、渡来系氏族との関係が注目されます。また、滑石及び碧玉などを素材とした装飾品や祭祀用具を製作する、いわゆる「玉作り」の集落としても知られています。

今回の調査では、「玉作り」の工房跡は見つかりませんでした。しかし、有孔円板をはじめ勾玉や剣形などの滑石製の模造品のほかに、約630点という数の滑石製の白玉が調査地全体から出土しています。

今回の調査地は「玉作り」工房の一部ではなく、集落全体に関わる祭祀や家族規模での営みが日常的に行われていた場所ではないかと思われます。これらの滑石製白玉は、そのサイズや形はバラバラで不揃いであることから、規格外の生産製品であったようです。生産地だから出来る贅沢なりサイクルだったかも知れません。(猿向)



さまざまな形の滑石製模造品



方形周溝墓と竪穴住居

大型竪穴住居を発見!!

辻遺跡

古墳時代後期

今回の調査では、古墳時代の竪穴式住居が15棟検出されました。竪穴式住居は全て四角形で、一辺が4~5mのものが主流です。しかし時期的にこれより古い一辺11m弱の竪穴式住居も3棟発見されました。辻遺跡の中でも最大クラスで、同じ調査で3棟も発見されるのはとても珍しいです。また、大型の竪穴式住居のカマドは、支脚の石が二つ立てられており、一つしか持たない一般的な竪穴式住居に比べても特別な住居であったと考えられます。

その他、今回の調査区では、飛鳥時代の掘立柱建物や井戸も発見され、井戸の最も深い所では祭祀に用いた須恵器や土師器が出土しました。

(藤岡)



飛鳥時代の井戸



大型竪穴住居と一般的な竪穴住居



竪穴住居のカマド

遺跡の東端で 大型掘立柱建物を発見

手原遺跡

奈良時代～平安時代



大型建物柱痕検出状況



大型建物周辺作業風景

昨年度の調査で、木簡が出土した溝や井戸が確認された南側調査区の東側を調査した結果、長辺東西5間（桁行 12m）、短辺南北2間（梁間5m）、柱間2.3mの、南側に庇をもつ大型の掘立柱建物（面積92㎡）がみつかりました。手原遺跡でこれまでに確認されている建物のなかでも最大級であり、手原駅の北側で確認されている役所中心部分をになう建物とされている建物の規模に匹敵します。建物の時期は、柱の抜きとり痕から出土した土器が8世紀末から9世紀前半頃であることから、それ以前の時期が推定されます。

大型掘立柱建物の性格については、区画溝のすぐ西側で確認されていた大型の井戸とほぼ同時期に存在していたことも含めて、豪族の居宅建物もしくは葉山川や東海道を利用した物流拠点の中心的建物などであった可能性があります。（近藤）



現地見学会のようす



栗 東 市

はっくつ 2008 —栗東市話題の発掘調査—

発行日 2009年3月31日

編集発行 (財) 栗東市文化体育振興事業団

〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

TEL 077-553-3359 FAX 077-553-3514

印刷 株式会社スマイ印刷工業